



# 虫に刺されないよう 気をつけよう

企画：  
日本医師会

No. 521

指導：兵庫医科大学皮膚科学 准教授

夏秋 優

## 危険な虫が身近にいます

野山や公園、家の庭など、身近な場所にも人に被害を与える虫がいます。野山にはスズメバチやアシナガバチが、高原や溪流沿いにはブユが、草むらや林にはマダニが、公園のサザンカやツバキの植え込みにはチャドクガがいるかもしれません。

虫に刺されたり咬まれたりすると、かゆみ、痛み、腫れなどが起こります。その原因には、①刺される(咬まれる)という物理的な刺激、②虫の毒成分の刺激、③虫の唾液成分や毒成分に対するアレルギー反応、の3種類があります。これらのうち、アレルギー反応によってかゆみが起こります。

## 虫に刺されて しまったら

痛みやかゆみが軽い場合には、刺された場所を水で洗い流して清潔にし、かゆみ止め外用薬を塗ります。患部を冷やすと、かゆみのある程度抑えられることもあります。症状が強いときには、ステロイド外用薬を塗ります。

虫別の対処の仕方を表に紹介します。医療機関の受診が必要な場合や、救急対応が必要なときもあります。

表 虫に刺された(咬まれた)ときの対処法

虫の種類	刺された(咬まれた)ときの対処法
カ	かゆみ止め外用薬を塗る。 かくと悪化するのなるべくかかない。
ハチ	傷口を流水で洗い流してから、冷やす。スズメバチなどの大きなハチに刺されたときは、すぐに医療機関を受診する。息切れや意識がないなどアナフィラキシー*の症状があれば、救急車を呼ぶ。
ドクガ	毛虫に触れた直後なら、粘着テープを使って毛(毒針)を取り除き、流水で洗い流す応急手当てをしてから、かかずに皮膚科を受診する。
ブユ	できるだけ早くステロイド外用薬を塗る。
アブ	止血したのち、患部を清潔にして、ステロイド外用薬を塗る。
マダニ	マダニを無理に引き抜くと頭部が皮膚に残って炎症を起こすので、マダニに気づいたらそのままですぐに皮膚科を受診する。



チャドクガ幼虫  
(体長:約25mm)



アシマダラブユ  
(体長:約3mm)



フタゲチマダニ  
(体長:約3mm)

\*アナフィラキシー：短時間のうちに全身にアレルギー症状が出る反応。血圧の低下や意識障害などを引き起こし、生命を脅かす危険な状態になることもある。

## 虫に刺されないために

野山に出かけるときには、夏でも長袖、長ズボン、帽子、手袋などを着用して、肌を露出しないようにし、虫よけ剤(ディートやイカリジン)を上手に使用しましょう。なお、ディートは乳幼児に対する使用制限があるので、注意書きをよく読んでから使しましょう。

マダニに刺されることによってウイルスやリケッチア\*などの病原体に感染することもあるので、普段から虫刺され予防を心がけましょう。



\*リケッチア：細菌より小さくウイルスより大きな微生物。ノミやダニが媒介し、ツツガムシ病、日本紅斑熱などを引き起こす。

日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



日医

バーコード読み取り機能付き携帯電話もしくはスマートフォンでご利用いただけます。